

FIVE STAR

ファイブスターオリジナルリフトアップスプリング
価格: 7万9800円(税込) 適合: U25カントリーマン



ファイブスター × 5ZIGENの共同開発



リフトアップ量は、見た目のスタイルと乗り心地を考慮したベストバランスの25mmアップ。
5ZIGENに製造を依頼した信頼性抜群のオリジナルスプリングだ。

U25専用リフトアップキットが熱い!!

人気のカントリーマンをもっとアウトドア仕様にしたい…そんな希望をサラリと叶えてしまうリフトアップキットがデビュー以来絶好調。ファイブスターと5ZIGENがタッグを組んだ自信作である。

F60専用もまもなく完成!!



先代F60用も現在鋭意開発中。U25用と同じく5ZIGENとの共同により「しなやかさ」を重視した味付けが施されている。近日発売予定。

「ノーマルショックアブソーバーをそのまま組み込める味付けはしなやかそのもの。コーナーリングでは適度に踏ん張り、下回りをヒットしにくくなった分、オフロードでのストレスも減少。アゲ系MINIの第一人者ファイブスター十国内有数のチューニングメーカー5ZIGENならではの完成度、魅力大である。

「最低地上高を上げてギャップ対応力を強化したい」といった声があることも事実。先日デビューしたこのコラボレーションスプリングは、そんな声に応えた渾身の逸品、と断言していい出来映え。

U25が秘めたポテンシャルを25mmリフトアップが引き出す



AERO Catch Up

グロスブラック
コーディネートもあり!

3DDesign

スリーディーデザイン

F66/67 JCW エアロ

Rearrange

ブレーキにはブレンボ製 6 ポッドキャリパーを装着。ホイールには、OZ RACING ESTREMA GT-HLT (18inch)。タイヤは、ADVAN Sport V107 (F:215/40、R:215/40)

F66 JCW の魅力を引き立てる 3DDesign のエアロプログラム。

カーボンとは異なるグロスブラック仕上げで、
コストとスタイリングのバランスを狙った新しいコーディネートが見えてきた。

© 3DDesign
tel.045-595-3330
<https://www.3ddesign.jp>





カラーバランスと コストに優れた選択

>FRONT LIP SPOILER [ウレタン]

フロントリップスポイラー

◦ 予定価格: 9万2000円(税別)

現行F66 JCWはフェンダー/サイドシル部分がもともグロスブラックなため、組み合わせるエアロもグロスブラックで統一しやすい。そうしたニーズにも応えることができる3DDesignの新ラインアップが登場

>RUF SPOILER [GFRP]

ルーフスポイラー

◦ 予定価格: 8万8000円(税別)



>REAR DIFFUSER [GFRP]

リヤディフューザー

◦ 予定価格: 14万5000円(税別)

※装着には別途塗装が必要。2026年9月末発売予定

スリーディーデザインの新F66 JCWエアロプログラムに、新たな素材を採用したラインアップが加わる模様だ。ウレタン製のフロントリップをはじめ、サイドスカート、リアディフューザー、ルーフスポイラーにはGFRP（ガラス繊維強化プラスチック）採用モデルの設定が予定されている。いずれもユーザーによる塗装が必要となるが、カーボン製に比べてリーズナブルに仕上げられる点も大きな魅力。

最終の装着確認が行われているスリーディーデザインのF66 JCWデモカーには、すべてのエアロをグロスブラックで統一してコーディネート。ボディカラーとのコントラストを余すことなく楽しめながら、各パーツの造形をより際立たせている。

スリーディーデザインでは、すでにカーボン製エアロやローダウンスプリングをラインアップし、現在はマフラーや車高調（車高調整式サスペンション）の開発も進行中。F66 JCWのトータルコーディネートは、まだまだ進化を続けている。



>SIDE SKIRT [GFRP]

サイドスカート

◦ 予定価格: 15万5000円(税別)





大口径＆分散吸気を採用したカーボン製インテーク。新鮮な空気を効率よく導き、アクセルレスポンスを向上。



跳ね上げたダックテール形状が魅力。純正の雰囲気を活かして大人のスポーティさを演出。



F65のサイドラインを引き締め、よりスポーティなスタイルを演出する専用アイテム。



厚さ8mmの樹脂パネルを採用したアムゼックスのフロントリップ。純正バンパーのデザインを活かしながら、フロントマスクをさりげなく引き締め、F65をよりスポーティでスタイリッシュな印象に仕上げる。



高透明フィルムでLCDの美しい画質をキープ。防汚・防指紋加工に加え、気泡が入りにくく貼りやすい。



後方視界を純正比2.6倍に拡大。ETC表示や自動防眩機能にも対応し、クリアで広い視界を確保する。



位置が高くなったリアゲートの開閉をサポート。純正ボルトを使って簡単にアで広い視界を確保する。



7mmパイルの上質なタフトカーベットを採用。グリーンステッチが足元をスポーティに彩る。



ドアパネルを傷や汚れから守るカーボン柄ガード。手軽に装着でき、質感もアップ。



ラリーレーシングの誕生40周年を記念して登場した「RR40」。F65にマッチする18×7.5J+42の専用サイズを設定し、純正ボルトにも対応。このサイズでは、クロスブラック×ダークシルバーロゴのオリジナルカラーとレースホワイトを、アムゼックス専用設定として用意する。

実用性も、走りも、スタイルも F65 (5ドア) をもっと楽しむ!!

5ドアならではの使い勝手の良さと、MINIらしいスタイリッシュなデザインをあわせ持つF65。そんなF65を、もっと自分らしく楽しみたいオーナーに注目してほしいのがアムゼックスの専用パーツだ。足元を引き締めるホイールからエアロパーツ、走りを高める機能系アイテム、インテリアの質感や使い勝手を向上させるアイテムまで幅広くラインアップ。日常をともにする5ドアMINIだからこそ、細部までこだわって自分だけの一台に仕上げてみてはいかがだろうか!!

F65 COOPER-S JCW TRIM

【F65 COOPER-S JCW TRIM SPECIFICATION】

フロントリップ	8万300円
サイドアンダースポイラー	12万1000円
ドリンクホルダー フロント左右セット	1万7160円
ラムエアシステム	19万5800円
LCD スクリーンプロテクター アンチグレア	2530円
キックガード	1万3200円
フロアマット (4枚)	4万5100円
ワイドルーフミラー	2万900円～
RR40 (18×7.5J+42)	9万200円

※価格はすべて税込



5ドアならではの使い勝手と、MINIらしいスタイリッシュなデザインをあわせ持つF65。そんなF65を「もっと自分らしく楽しみたい」というオーナーに注目してほしいのが、アムゼックスの専用パーツだ。F65用のエアロパーツから走りを高める機能系パーツ、インテリアアイテムまで幅広くラインアップする。

F65カスタムのキモとなるのが、OZレーシングとのコラボレーションによって生まれた「RR40」。アムゼックス専売となる18×7.5J、インセット42の専用サイズを採用し、純正ボルトがそのまま使用できるほか、ハブもF66系に合わせた専用設計。クロスブラック×ダークシルバーのオリジナル仕様で、足元を引き締めF65をスポーティに演出する。レースホワイトも設定。まず手を入れたのがエクステリア。アムゼックスフロントリップは、厚さ8mmの樹脂パネルを採用し、純正バンパーを活かしながらフロントマスクを引き締める。F65用サイドアンダースポイラーとの組み合わせもおすすだ。新作リアスポイラーは、新型MINIのシルエットを崩さず、純正リアスポイラーのスポーティな印象を強調。エンド部分を跳ね上げたダックテール形状が、BMWのツーリングモデルやスポーツカーを思わせる雰囲気を演出する。大人のスポーティを、狙うF65におすすめしたい。位置が高くなったリアゲートには、開閉をサポートするテールゲートストラップを用意。純正ボルトを利用して簡単に装着でき、使い勝手を高められる。

インテリアでは、後方視界を約2.6倍に広げるワイドルーフミラーカバーが便利。多層コーティングによるクリアな視界に加え、ETCの案内表示にも対応。レザーとウルトラステッドを設定し、純正の自動防眩機能にも対応。ドリンクホルダーは穴あけ加工が不要で、各部の操作にも干渉しない。台座をフリップすることでレッドステッチとシルバーステッチを変更できる。キックガードは、水や汚れに強いPVC素材にカーボン柄を組み合わせ、ドアパネルを保護する。

F65の走りを楽しみたいなら、アムゼックスとグループ・エムが共同開発したラムエア・システム。正面からの吸気量を拡大するとともに、ファンネルから2次エアーを取り込み、フレッシュエアの導入量を向上。軽量カーボン製インテークダクトで吸気経路をエンジンルームから極力遮断し、レスポンスアップを狙ったシステムだ。

さらにアンダーレースも注目のアイテム。旧モデルよりもボディ剛性が高められたF65に合わせ、必要な剛性を確保しながら一部に肉抜きを施し、硬すぎない適度な補強を実現。ストリートユースを主眼に置いた扱いやすい味付けが特徴だ。

大型化した新型MINIの円形有機ELナビには、傷や指紋から画面を守る専用ナビ保護フィルムを用意。毎日触れる場所をきれいに保てる。

足元には国内で開発・製造されている専用フロアマット。純正よりも長い7mmパイルのタフトカーベットを採用し、濃いブラックが上質な雰囲気を演出する。撥水性や耐久性に優れたポリプロピレン素材に加え、滑りにくい裏面やズレを防ぐマジックテープ式タッチメントなど実用性も高い。グリーンステッチのバイピングとブランドタグが、さりげなくアムゼックスらしさを主張する。

F65は5ドアだからこそ、家族とのドライブや日常の足として活躍する機会も多い。見た目でなく、使いやすさや走り、インテリアまでトータルで自分好みに仕上げたい。アムゼックスなら、F65オーナーの「もう少しMINIを楽しみたい」という気持ちに応えてくれるはずだ。



オーゼットジャパン 株式会社
代表
内山 晶弘氏
OZ JAPAN
AKIHIRO UCHIYAMA

ルとはひと味違った存在感を放つのも魅力。リムから中央へ向かって深く落ち込むような造形が足元に力強さを与え、MINIのコンパクトなボディとの相性も抜群だ。クラシックMINIを思わせるレットロな雰囲気と、モータースポーツを連想させる躍動感を同時に楽しめる。

さらに、鮮烈なレースホワイとも同サイズに限りアムゼックス専売カラーとして設定。グロスブラックとは対照的に、足元を明るく軽快に見せながら、RR40ならではのレーシーな個性をより強調するカラーだ。ボディカラーとの組み合わせ次第で印象を大きく変えられるため、MINIのスタイルに合わせて選ぶ楽しさも広がる。

40年にわたって受け継がれてきた「ラリーレーシング」のDNAと、現代のMINIを知り尽くすアムゼックスのこだわり。その両者が融合したRR40は、単なる復刻系ホイールではなく、伝統を現代へと進化させた特別な一品。MINIの足元に個性とレーシーな雰囲気を与えながら、実用性まで妥協したくないユーザーにこそ選んでほしい、アムゼックスならではのスペシャルモデルだ。

アムゼックス × オーゼットのコラボホイールがRR40で実現

AMSECHS OZ RACING

MINIの足元を彩る圧倒的な存在感
アムゼックスだけの特別な逸品!!



●問い合わせ
全国 AMSECHS 取り扱い
プロショップ & ディーラー
<https://abeshokai.jp/amsechs/dealer.html>



アムゼックスのデモカー、F65 クーパー S JCW トリムに装着されたRR40。グロスブラックのディスクに、ダークシルバの「O・Z RACING」ロゴを組み合わせた専用カラーが個性を主張。伝統のラリーレーシング譲りのデザインが、MINIをよりスポーティに演出する。



伝統のラリーレーシングを現代に受け継ぐRR40。その魅力をさらに引き出すのが、アムゼックスだけの専用サイズ&カラーだ。グロスブラックにダークシルバのO・Zレーシングロゴを組み合わせ、F系MINIの足元を个性的かつスポーティに演出する。

- サイズ：18 × 7.5+42
- 価格：9万200円（税込）
- カラー：グロスブラック＋ダークシルバロゴ、レースホワイ＋レッドロゴ



伝統のモータースポーツデザインを継承した、アムゼックス別注の軽量・高剛性ホイールだ。洗ったようなグロスブラックにダークシルバロゴが洗練された足元を演出する。専用サイズ（18 × 7.5J +42）を採用し、専売カラーのレースホワイも展開する。

伝統を受け継ぐ特別なRR40
アムゼックスだけの専用カラー

「RR40」。象徴的なディテールデザインとレーシングスピリットを受け継ぎながら、現代の車両に求められる高い強度・剛性、そして優れたフィットメント性能を備えた新世代のスポーツホイールだ。そんなRR40をベースに、アムゼックスとO・Z RACINGが初めてコラボレーション。通常ラインナップには設定されないグロスブラック×ダークシルバの専用カラーを採用し、さらにサイズも「18 × 7.5J +42」というアムゼックス専用スペックに仕立てた。

ブラックを基調とした精悍なフェイ



スに、さりげなく映えるダークシルバの「O・Z RACING」ロゴ。そのカラーリングは、クラシカルなラリーレーシングの雰囲気を残しながら、現代のMINIに似合うスタイリッシュな表情を演出する。あえてアムゼックスロゴを使用していないのも、このホイールならではのこだわり。ブランド名を前面に押し出すのではなく、デザインと仕様そのものによってアムゼックスらしさを表現している。

もちろん、見た目だけのスペシャルモデルではない。インセット+42に設定することでF56系、F66系の両方に対応する汎用性を確保。さらに、JCWのビッグキャリパーにも対応しているため、ハイパフォーマンスモデルのオーナーも安心して装着できる。MINI専用として考え抜かれたサイズ設定だからこそ、フェンダーとのバランスやホイールの存在感も美しく引き出せる。RR40が持つ独特のディテールデザインは、一般的なスポーツホイー

AMSECHS
TAKANORI
AKAHORI

株式会社阿部商会
営業本部
部長
赤堀 宇律 氏



飛び回るアクティブ女子
九州の福岡から全国へ
行動力がハンパではない



With
**R53 COOPER S
JCW kit**



寺下嘉代さん

ミニミニ大作戦のシャーリーズセロンに憧れ、真っ赤なミニに乗り始めたという寺下さん。全国区のイベントスタッフとして長年貢献し、ミニに乗る女性としてとても知名度の高い女性だ。明るくて、控えめな性格が好印象で、とてもチャーミングなのだ。

facebook: kayo.terashita.510

MINI Girls vol. 3

「BMW MINIが好き!全国オフ」、「Red Hot MINI」、「510MOTORRING」、「RANGER STYLE」、「北九partnera club」、などに関わる全国区で超有名なミニ女子が今回紹介する寺下嘉代さんなのだ。

ミニガール企画の前号で取材した「小林はるみ」さんから「ミニ乗りの女性といえば、この人を取材しないといふのはありえないですよ!」と激推しされたのが今回登場の寺下嘉代さん。色々話を聞いていくと、まさにBMWミニのカスタムの草分け的存在なのでは?と思える内容がてんこ盛り。寺下さんのミニとの出会いは、2003年に「ミニミニ大作戦」という映画で、自分も絶対にシャーリーズセロンに乗っていた赤いクーパースに乗るんだと決め、2004年2月に念願の赤色のミニをゲット。そこから22年間ミニに乗り続けているのだそう。元々、運転が大好きで、自走でかなり遠くまで旅行をしていたのだが、ミニに乗り始めてからその行動力にペーストが掛かる。2007年からスタートし、2

025年まで開催された「BMW MINIが好き!全国オフ」で、長年スタッフとして、愛知・山梨・三重・山口・長野・島根・兵庫での開催を通じて大勢のミニ乗りとの交流が生まれている。今では「510MOTORRING」というグループを2006年に結成。60名が所属する大所帯となっている。今回イベント取材した「レッドホットMINI」でもスタッフとして動き、精力的な活動をしているのだ。今現在乗っているクルマは、2005年に購入したR53にJCWの後付けキット装着車。元々はガンメタだったのを2018年にチリレッドに全塗装。今回参加した「RHM」に向けて、エンジンを下ろして、クラッチ交換をはじめ、様々な消耗品パーツを交換し、リフレッシュしている。



RHMに参加したメンバー 還暦の仲間一枚!

今回参加した「RHM」で、
還暦を迎えた仲間とのワン
ショット。年齢層が高くて
も行動力は20代顔負けなの
だ(笑)。



コンディション管理が好調の秘訣!



今回の「RHM」に参加するために、クラッチを含むエン
ジン周りのオーバーホールを敢行。間に合うのか?とドキドキ
だったそうだが、絶好調で参加が実現。まだまだ長く乗る予
定なのだそう。



運営スタッフとして活動 時にはピンクレンジャー?

昨年、10月に開催された
「BMW MINIが好き全国オ
フ in TAGAWA」。
北九partners clubで、寺
下さんはピンクレンジャー
として参加。



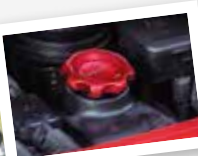
今はメジャーなカスタムだが、当時他
に誰もやっていなかった時代にワンオフで
ステンレスのアイラインを製作し装着。
先見の明という言葉がよく似合うのだ。



インテリアに関して、CABANAさんの
初号機シートカバーを装着。時代を先取
りしたカスタム。
インパネにはモニター埋め込み。かなり
手の込んだインテリアカスタムがなされ
ているのだ。



細かなアイテムをレ
ッドに交換。好調を
維持するために、か
なり手の入ったエン
ジン周りなのだ。メ
ダマリンのステッカ
ーは星飛雄馬仕様な
のだ。



ナンバーは、当然510。
ルーフの猫のダヤンは、
作画の事務所にも許可を
得ている公式。ダヤンに
フラッグを持たせている
のは寺下さんのオリジナ
ルデザインなのだ。



ミニのゴーパッチは、友人か
らのプレゼントで、なんと七
宝焼き。よく見るとミニエン
ブレムはスワロフスキーとい
う豪華バージョン。



ボディサイドのステッカーは、実は九州をかたどっている。
よく見ると拠点といえる場所のカラーが違う。
参加しているイベントのステッカーが大々的に貼られている。



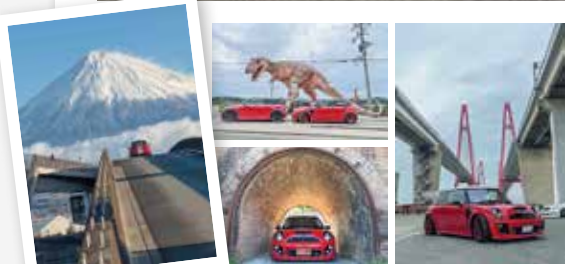
この形に至るまでに試行錯誤を繰り返し、ようやく完
成形と言える今のスタイリングになった。唯一無二の
寺下嘉代スペシャルなのだ。

MINI
Girls

人生の隣にいつもミニがいる
そんな生活が気に入っている



Kayo's LENS



イベント参加だけでなく、基本的に旅好きな寺下さん。あ
ばんさんを誘い、日本各地をツーリングで訪れている。訪
問した先に必ずミニ友がいるのは寺下さんの人柄と行動力
のなせる技だ。

1台目



3台目



2台目



今回、同郷のあばんさん
を誘い、同乗で「RHM」
に参加。普段は、あばん
さんのR53とツーリング
をする仲なのだそう。



海外の310motoringをバクって、初
代隊長の名前を取り入れ、
510motoringを結成。今現在60名が
在籍。5月に「510祭」を開催。

寺下さんのMINIは、数々の初
となるカスタムが施された一台だ。例
えば、CABANAに直接依頼して仕
立てたレカロシート用のオリジナルシ
ートカバー。同ブランドがメジャーに
なる以前からの付き合いだという。さ
らに、R53のヘッドライトにはワンオ
フ製作したステンレス製アイラインを
あしらう、ライト内部にはイカリング
を移植、七宝焼きのゴーパッチをあし
らうなど、今では定番となったスタイ
ルを当時から取り入れていた。寺下
さんにとってMINIは、広い世界を教
えてくれたかけがえのない存在。まさ
に人生のパートナーであり、「心から愛
している」と言い切れる一台なのだ。





ソウワコーポレーション
店長
渡邊 康弘 氏

SOUWA CORPORATION
WATANABE YASUHIRO

坂田…開発時もまさにそこを意識していました。インアウト非対称パターンを採用し、イン側でノイズ低減と排水性を担い、アウト側はブロック剛性を高めてコーナリング時の踏ん張りを効かせています。さらにエクストラロード（XL）規格を採用しながらも、強い衝撃をタイヤ全体で包み込むような構造に仕立てていますので、MINIのような引き締まった足回りの車には特にマッチするのだと思います。

てセットアップしていたんです。そこにこの「PROXES Comfort II S」を履かせたら、クルマのキャラクターが一変しました。坂田…どのように変化しましたか？ 渡邊…嫌なロードノイズが消えて室内がものすごく静かになったのはもちろん、サスペンションの減衰力を1〜2段階硬く調整し直したくなるほど、タイヤ側でいなしと吸収してくれるようになりまして。それでいて、ハンドルを切ったときの踏ん張り感がしっかりある。スポーツ系の「PROXES Sport 2」だとグッと切れ込むような鋭さがありますが、Comfort II Sは反応がシャープでありながら挙動が穏やかで、リアの安心感（アンダー寄りの安定性）が強い。MINIのクイックなステアリング特性と実に相性がいいんです。

「組み立て時の印象」と「実走でのギャップ」に驚いた

渡邊店長（以下、渡邊）…今日はよろしくお願いします。実は今回、当店のデモカーであるF55クーパースに「PROXES Comfort II S」（サイズ：215／45 R17）を装着してじっくり走らせてみたんです。まず、最初に組み付け作業をした段階で「おや？」と思ったことがあって。

坂田氏（以下、坂田）…と言いますと？ 渡邊…正直な第一印象は「想像以上に硬くて、ズッシリ重いな」だったんです。一般的なコンフォートタイヤって、サイドウォールが柔らかくてしなるイメージがあるじゃないですか。でもこれは張りがあつて全然歪まない。「これ、本当にコンフォートタイヤなのかな？」と最初は疑問に思いました。

坂田…なるほど（笑）。そこはまさに私たちがこだわったポイントなんです。このタイヤは「PROXES」という弊社のグローバルフラッグシップブランドを冠しています。前作の「C1 S」



で評価いただいていた高い静粛性をさらに向上させつつも、PROXESの名に恥じない「走りの質」を損わない設計にしています。単に柔らかいだけのコンフォートではなく、サイドウォール周辺に適度な剛性を持たせ、しっかりとした構造に仕上げているんです。

渡邊…ここからが本場にびっくりしたところなんですけど、実際にクルマに装着して走り出すと、組み付け時の硬いイメージが完全に裏切られたんですよ。とにかく「当たりが優しい」。硬さは一切感じず、路面の突起を角のない心地よいフィードバックでいなししてくれるんです。

坂田…ありがとうございます！プロファイル（タイヤの断面形状）や内部構造を最適化し、局所的に折れ曲がるのではなく、タイヤ全体がしなやかにたわむように設計しています。また、コンパウンド自体も前作よりわずかに柔らかい配合を採用しており、接地感の柔らかさと構造のしつかり感を高次元でバランスさせています。

「よく転がる」軽快感と先進技術「T-MODE」の進化

渡邊…もうひとつ驚いたのが、アクセルを抜いたときの「よく転がる感」です。フリクションなくスーッとクルマが前に進む感覚がすごく強い。タイヤ自体

は重みを感じる設計なのに、走るととにかく軽快なんですよね。

坂田…まさに狙い通りです。今回のComfort II Sは、専用の新コンパウンドを採用しています。前作比で転がり抵抗を約30％低減しています。ノイズを抑え、操縦安定性を確保するためにトレッドに一定の厚み（重み）を持たせつつも、この新コンパウンドと構造の最適化によって、相反する「低燃費（転がりの良さ）」と「ウェットグリップ」を高いレベルで両立させています。

渡邊…その緻密な設計は、やはりコンピュータシミュレーションを活用されているんですか？



「組み付け時の硬い印象とは裏腹に、走らせるととにかくマイルドで静か。それでいてハンドルを切ればリアがブレずにしっかりついてくる」と、デモカーのクーパースをドライブしながら絶妙なフィードバックの変化を語る渡邊店長。

現場が求めるサイズ展開とこれからの提案

渡邊…今回はF55／F56の定番である205／45 R17に対し、ワンサイズ太い「215／45 R17」でテストしましたが、メーター誤差も許容範囲で最高の仕上がりでした。ただ、ユーザー目線で言うと純正同サイズのラインナップ拡充も期待したいところです。

坂田…現場の皆様や市場からのご要望は常に汲み上げておりまして、現在順次サイズラインナップを拡大させているところです。MINIユーザーの方々にもジャストサイズで選んでいただける環境を整えていきます。

渡邊…チューニングショップや専門店って、どうしても「走りハイグリップなスポーツタイヤ」という提案になりがちだったんですね。でも、MINIを日常使いされたり、ご家族を乗せたりするユーザー様から「もっと乗り心地を良くしたい」「静かに走りたい」という相談を受けたとき、今までは選択肢が限られていました。今回Com

fort II Sを体感して、「走りも妥協したくないけれど、快適性も欲しい」という方に自信を持っておすすめできる最高の選択肢が見つかりました。坂田…そう言っていたら、開発者冥利に尽きます。走りの楽しさと日常の上質さ、その両方をMINIオーナーの皆様に体感していただければ嬉しいですね。

MINIライフを一段引き上げる新たなマスターピース

スポーツ性能に特化したタイヤでもなく、ただ柔らかいだけのコンフォートタイヤでもない。「PROXES Comfort II S」が表現しているのは、MINIが持つ走りの愉しさを損なわずに、移動の時間を上質な空間へと変えるプレミアムなバランス感覚だ。足回りのチューニングを詰めたMINIにこそ、その真価がはつきりと現れる。愛車の乗り心地やノイズに悩みつつも、MINIらしいハンドリングを諦めたくないオーナーは、ぜひ一度その魅力確かめてみてほしい。



坂田…はい。TOYO TIRE独自の基盤技術である「T-MODE（ティーマード）」という高度な解析システムをフル活用しています。実際に金型を起こす前の段階で、レーンチェンジ時の挙動やトレッド面の接地圧分布などをシミュレーション上で徹底的に解析・最適化しました。渡邊…昔みたいにゴムを職人さんが手で削って試作していた時代とはまったく違うわけですね（笑）。坂田…そうですね（笑）。シミュレーションで狙いを定めてから試作し、テストコースでの実車評価を行って、さらにシミュレーションへフィードバックする。このサイクルを繰り返しながら、約2年間かけてじっくりと作り込みました。

MINIの足回りを引き立てる「シャープだが穏やか」な味付け

渡邊…実は今回のデモカー、足回りにはTEINのサスペンションと電子制御減衰力調整コントローラー（EDFC）を組み込んでいて、「MINIとして最高の乗り心地と追従性」を目指し

TOYO TIRES
SAKATA
HIROKAZU

技術開発本部
REタイヤ開発部
商品開発グループ
担当リーダー
坂田 浩一 氏



MINI LABO から U25 カントリーマン S をベースにした最新デモカーが登場!!
 ファイブスター製キットでリフトアップし、
 OZ 製ホイールとゴツゴツとしたクーバータイヤを組み合わせた足回りは圧巻。
 ルーフには THULE のテントも完備し、どこへでも駆け抜けてそのまま泊まれる
 遊び心と実用性を極めた本格アウトドア仕様。



ルーフ上に開かれたプライベート空間。慣れれば1人でもスピーディに設置でき、四方の窓による抜群の通気性と快適性を実現。信頼のTHULE 製らしい高い耐久性と洗練されたデザインで、車中泊旅をより自由に格上げしてくれる注目のギア。

クーバータイヤの「DISCOVERER ROAD+TRAIL AT (235/60R18)」は、タフでワイルドな外観を持ちながら、街乗りからオフロードまで快適で静かな走りを両立。高い耐久性と全天候対応性能を備えたオールデレンタイヤ。



COUNTRYMAN X MINI Labo

どこへでも行ける究極のアウトドア仕様
 ルーフテントで広がる冒険スタイル

大好評のMINI乗りさん探訪☆★

グレード変換DIYと後付けコーディングを経て カッコ良く進化したクーパーDのオーナーさん

全 国のミニマガジン読者の皆様
こんにちは(^_^)/
暦の上ではとくに秋なのに、暑い毎日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか?? 今回も前回に引き続き、夏のようにHOTでお洒落なMINIをご紹介します頂ければと思います♪ 今回ご紹介させて頂くのは島根県にお住まいのつばささんの愛車です!

《MINIに乗り始めたきっかけは?》

「四駆自動車で遠出するのが苦痛になり、国産車のやっす〜く二人ぐらいで乗れる普通車を探していました。S社のハッチバックが目に入り、クルマ好きの父に話したところ、「どうせ買うなら外車にしてみては?」と言われ、クルマ探しが振り出しに戻りました(笑)。

しばらくネットの海を彷徨っているとR50シリーズがお値打ち価格でキラキラして見えました! それでMINIとの出会いです」

《カスタムポイントを教えて下さい》

「2016年製、今年で10年の節目を迎えるクルマで、劣化した部分を違うグレードのパーツにDIY交換したり、無いものを付けたりしています。ク



ーパーDなので付けられる部品が少なく、どこに製のものを装着していました。と言うものは少ないのですが、ディーゼルの設定が無いものを中心に少しスポーティに、そしてクーパーの可愛さをブレンドして、今の姿に辿り着きました。車内外に丸みを帯びた物が多いので、ホイールはOZのウェーブを採用し、Sのバンパー、GPグリルとリアウイング、リアバンパーとボンネットはクーパーと言うキメラな一台になりました。以前、R50に乗っていた頃、ディーラーの32時間オーナー体験でディーゼルのF56を借りた時に、室内の静音性やトルク感、燃費の良さに惹かれて、現車に繋がる中古車の見積もりをお願いしました。試乗車はLCIの車両で、迎えたのは



MINIに 密着連載!! vol.21
乗れば乗るほど
ミニ大好き女子のホシさんの日常に密着。



前期のクーパーでした。

当時何も知識がないまま迎えて、ナビの仕様も違い、デイルイト未点灯、ドライビングモード、クルーズコントロール設定すらありませんでした(泣)

でも、インスタグラムから知り合うことができた今は亡き師匠のおかげで、ドライビングモード、クルーズコントロール後付け等のコーディングを知り、どんどんMINIの沼にハマり、DIY仲間も増えていきました(山陰には専門店が無いので、長距離ドライブか自分でやるしかありません)」

《愛車との思い出を教えてください》

「現車のF55は2021年9月に約2万5千キロでお迎えしました。この5年間で約15万キロを走り、共に過ごしてきました。17万キロと、人生で見たことがない距離になっていますが、前期モデルが壊れないのか、

当たり個体なのか分かりませんが、大きなトラブルもなく、北海道・東北・新潟・沖縄・離島以外自走で快調に走り抜けています。この5年間で

たくさんの数え切れない思い出があり、初めてのオフ会、そして、そこで知り合った仲間たちと九州や四国、関東などへ行けて最高の思い出が出来ました! そしてR50時代セブンモデルに乗っていた頃の7(セブン)のロゴとF系のセブンモデルカラー、ユアーズのラピスラグジュアリーブルーが偶然重なっているので、R50の思い出と一緒に今後も20万キロ目指して駆け巡りたいと思います」



つばささん、とっても素敵なエピソードとお写真ありがとうございました(^_^)/ これからも素敵な愛車と素敵な思い出をたくさん作って下さいね♪

